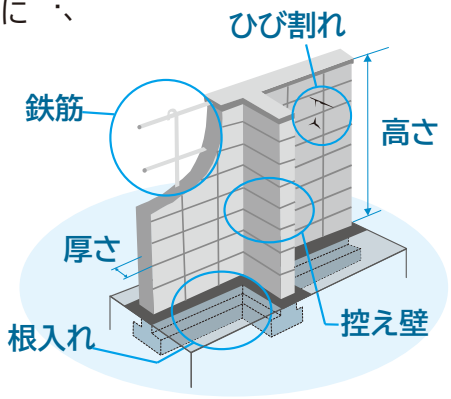
ブロック塀の安全点検をしましょう

大きな地震が発生しブロック塀が倒壊すると、人的被害だけでなく、道路をふさぐことで緊急車両が通行できず、救助活動の妨げになる場合もあります。ご自宅のブロック塀を点検しましょう。

問合せ 地域防災課☎(81)1110

ブロック塀の点検のチェックポイント

①塀は高すぎないか（塀の高さは地盤から2.2m以下か）
②塀の厚さは十分か（塀の厚さは10cm以上あるか）
③控え壁はあるか（塀の長さは3.4m以下ごとに控え壁があるか）
④コンクリートの基礎があるか
⑤塀に傾き、ひび割れはないか
⑥塀に鉄筋は入っているか
※町のホームページにチェックポイントの詳細を掲載しています。



ブロック塀の危険度審査を行っています

ご自宅のブロック塀に、少しでも危険かな…、大丈夫かな…と不安を感じたら、地域防災課にご連絡ください。知識を有する専門家が無料で危険度診断に伺います。

危険ブロック塀などの改修には、町の補助制度があります

小中学生が通学する道路に面した緊急性のある箇所を中心に、危険ブロック塀の撤去および安全な工作物を設置する工事費に対して補助を行っています。詳細は、町ホームページをご確認ください。

町ホームページ ID 426

ちょうちょう発し その29 「学校を考える原点」

国内で介護保険が始まるという時期、介護や福祉、助け合いの共同生活や小さな経済の回し方を学ぶため、所属NGOより欧米各国を約3か月半、回る機会をいただきました。

インターネットの普及していない時代、事前に本や記事などで集めた断片のような情報を頼りに、知り合いのいない土地では、公的機関などから情報を得たり、それこそ電話帳をめくって電話をかけ、面会や見学を繰り返しました。与えられた機会を可能な限り、街に触れ、人に触れることに費やしました。パリの公園や空き地で大人たちが鉄の玉ひとつで興じるゲームが、ペタンクといって中井町でも親しまれていることを知ったときは驚きでした。

地域通貨の元となる考えを継承したイサカアワー、環境共生型の共同生活、腰痛を「知らない」介護職の働き方、母国とのつながりが希薄な移民青年への支援など、現地での光と影も目の当たりにしましたし、今なお日本が追いついていない事例も多数あり、今の与えられた役割にも活かされることとなる旅でした。

知り合いが、ロンドンで教頭を務めている支援学校を訪ねました。この学校には心身に障がいがあったり、学習障害があるため、一般校ではなじめない子どもたちが、次のステップに向け、個別の補習やセラピーを受けられる学校です。子どもたちも互いに理解しており、いじめられるようなこともないので、ずっとここに通いたいと思っているとのことでした。

その背景には、教師とソーシャルワーカーなどがチームとなって一人ひとりと向き合う取り組みがあります。今でこそ日本国内でも他職種の方が学校教育に携わっていますが、外部から沢山の人が関わり、職員室でわたしが質問をすると、そこにいるみんなが答え出す、という感じで活気がありました。集団下校をするために体育館に集まっている様子を見ました。音楽がかかっているかのように子どもたちの声が響いていました。

一人ひとりが大事にされ、また子ども同士も受け止め合って成長する。そこに先生方を孤立させない、専門職や地域の協力がある。あの学校で過ごした数時間が今でも学校を考えるときの私の原点になっています。

令和8年度から向こう10年の方向性を策定した「なかい教育ビジョン」に基づき、学校のあり方検討が始まります。これからの中井っ子をどう育みたいか、中井っ子はどう学びたいか、学校施設の方向性も含め検討してまいりましょう。